

## 甲武信岳山行報告

【山行日】2016年 11月 12～13(土日)

【集 合】岩舟支所駐車場 AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 11,000円

【メンバー】 CL:鈴木、岩淵、大西、香川、  
関、藤原

12日 道の駅「みとみ」に車を置き、徳ちゃん  
新道経由で甲武信岳に登り甲武信小屋に泊る。  
岩舟支所 P4:00＝道の駅「みとみ」P6:40/6:55～  
徳ちゃん新道入口 7:35～近丸新道分岐 10:30～  
2100m 地点 11:20/11:50～木賊山 13:00～  
甲武信小屋 13:55/14:05～甲武信岳 14:35/14:50  
～甲武信小屋 15:10



今年最後の宿泊山行は、奥秩父の名山「甲武信岳」に登る計画にした。

この時季は南の尾根を登る徳ちゃん新道から、戸渡尾根経由で甲武信岳山頂へのコースがお勧め。



岩舟支所から熊谷市経由で秩父市に向かい、R140を進み雁坂トンネルを抜けると道の駅「みとみ」に着く。準備を整え、トイレとストレッチを済ませ出発する。西沢渓谷入口から笛吹川に沿って歩いて行く。カラマツや楓の紅葉が朝日に当たりとても綺麗。近丸新道登山口を右に見送り、西沢山荘手前に小さな道標があり、徳ちゃん新道入口に着く。ここから山道になり、カラマツ林の中を九十九折れに登って行く。段々傾斜がきつくなるが、日差しを浴びながら気持ちよく歩ける。徳ちゃん新道は、甲武信小屋の主人、山中徳治氏親子達により作られた登山道。I 淵さんが「徳ちゃん新道は歩き易く気に入った。徳ちゃんに会ったらお礼しなくちゃ」とルンルン気分で登って行く。ところが、ますます傾斜がきつくなり、ペースが上がらず近丸新道分岐に30分遅れて着いた。大休止し果物や菓子を食べて、エネルギーを補給する。ここからは戸渡尾根を登るようになり、2000mを越えたあたりから登山道に雪が出てきた。樹相が針葉樹林に変わり、つらい登りにバテ気味なので樹林の中に入り、昼食を食べることにした。温かいキノコうどんを作り、お稲荷さんと一緒に美味しくいただく。少し元気が出て、シャクナゲやシラビソの林の中頑張ると、視界が開けた岩場に出る。ゆっくり休憩を取り、富士山や御坂の山々の眺望を楽しむ。展望地からもう一登りすると主稜線の分岐に出て、左に進み木賊山を目指して進む。

登山道には雪が15cm位あり、木賊山山頂で女性達はアイゼンを付ける。山頂から甲武信小屋を目指して下って行くが、アイゼンを付ければ鬼に金棒と一気に下って行く。我輩とK川さんは後をつけて行くのが大変だった。甲武信小屋に着くと、すでに大勢の登山者が休んでいた。我々も小屋前のベンチにザックをデポし、カメラと水とおやつを持って山頂を目指す。





女性達にはアイゼンは魔法の靴で、勢いよくガンガン登って行く。山頂に着き、甲武信岳山頂の大きな標識に登って記念写真を撮り、ご褒美のミカンとおやつをいただく。風も無く穏やかな天気恵まれ、富士山や金峰山等360度の展望を楽しめた。展望を楽しんだら小屋まで戻るが、下りはさらに早く、我々男性は置いて行かれた。小屋で受付を済ませ、二階の寝床に案内されたが2人で1枚の布団に寝るようだ。着替えや荷物の整理を済ませたら、下の食堂で宴会を始める。食堂では日本山岳会の方々が今年の慰霊祭を行った後、お浄めのお神酒が振舞われていた。大なべでモツ煮込みを作り、我々にも、おすそ分けがありお酒を美味しくいただいた。食堂が夕食の準備でお開きになり、2階に戻って布団に入り少し休む。5時に「夕食が出来ました」と案内があり、食堂へ急いで行く。

甲武信小屋名物のカレーはとても美味しかったが、お酒

を飲んだのでお代わりは出来なかった。

夕食の後は2階にもどり、寝床を一人分確保し少し楽に休めるようにして、明日に備え床に就いた。

**13日 甲武信小屋から破風山&雁坂嶺の稜線を歩き、雁坂峠から道の駅「みとみ」へ下山する。**  
甲武信小屋 5:45～笹平避難小屋 7:05/7:15～西破風山 8:20～雁坂嶺 10:00～雁坂峠 10:30/11:00～林道終点 12:50～道の駅「みとみ」13:40/14:05＝岩舟支所 P18:30

朝食は5時30分からと言われていたが、5時過ぎに「朝食が出来ました」と声が掛かり食堂へ急ぐ。温かいご飯にお味噌汁と茶碗蒸しに海苔と佃煮だが、余分なものが無く丁度良い量で完食した。小屋の主人「徳ちゃん」に挨拶し、外に出てアイゼンを付けストレッチを済ませ出発する。最初は木賊山の巻道を下って行くが、アイゼンを付けたのでハイペースで下って行く。シラビソの中を歩く道は水平からやや登り気味に続き、主稜線へ出たら左に進む。ハクサンシャクナゲに囲まれた尾根道を緩やかにたどり、やがて道が下り始めると見晴



の良い賽の河原に出る。富士山を見ながら休憩を取り、衣服調整をして水分を補給する。賽の河原からはさらに急な下りが続き、シラビソの立ち枯れが目立つようになる。下り切った所から少し登り返し、緩やかに下ると笹原に避難小屋が建つ笹平に着く。小屋脇のベンチで休憩し、雪が無くなったのでアイゼンを外した。笹平から西破風山への登りは、今日の行程中最もきつい登りで岩が露出した急傾斜の登山道に登るようになる。途中まで登ると雪が残っており、登るペースがかなり遅くなる。アイゼンを付けないと、怖くて足が出て行かないようだ。

「登りだから蹴らないように歩けば滑らないから」と、叱咤激励しながら登りようやく山頂に着く。

西破風山山頂で休憩を取り、下りに備えアイゼンを再びつけさせる。後から登って来た団体さんが追いついたので、我々は東破風山に向かって出発する。アイゼンを付けると元気が出て、グングン



下って行き我々男性はついて行くのが大変だった。東破風山へは岩が積み重なった尾根を歩き、富士山を見ながら爽快に歩ける道だ。東破風山に着くと女性が一人で食事中、じゃましてはいけないのですぐに下って行く。樹林の中の岩交じりの急坂を下ると鞍部に着き、ここから本日最後の登りになる。雁坂嶺へは、いくつかの小さなピークを越え、緩やかな歩きと登りを繰り返しながら登る。雁坂嶺で富士山の展望を楽しんだら、雁坂峠に向かって下って行く。最初は緩やかな下りだが、徐々に傾斜がきつくなり一気に下り雁坂峠に着いた。雁坂峠は

日本三大峠の一つで、景色も良くとても雰囲気がある峠で！ 渚さんも気に入ったようだ。少し早いが予定通りここでランチタイムとする。ラーメンを作り、富士山や広瀬湖を見ながら美味しくいただく。食べ終わると団体さんが降りて来たので、後片付けをして場所を譲り下山する。峠からは南へ続く笹原を、九十九折れに急降下で下って行く。

広葉樹が多くなると道幅も広がり、峠沢右岸に沿ってなだらかに下って行く。途中、川原に降りて、峠沢を右岸から左岸へと渡りすぐに支沢を飛び石で渡る。ここからは高巻く道を歩き、峠沢の沢床が眼下に離れて行く。ここからは紅葉を楽しみながら、緩やかに下り踏切沢橋を渡ると広い舗装の林道歩きとなる。長い林道歩きが続き、雁坂トンネルへの高架道をくぐると、右にキャンプ場への標識がありキャンプ場に向かって降りて行く。キャンプ場を通り、釣り場の脇を通過して橋を渡り、道なりに進むと道の駅「みとみ」の手前になる。R140を渡ると道の駅に着き、トイレを済ませてお土産を買ってから帰路につく。途中もう一つ、道の駅「あらかわ」に寄り、秩父市街で渋滞があり岩舟支所Pに予定より少し遅れて帰着した。

